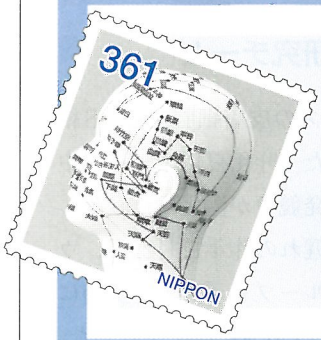

「第二次日本経穴委員会」便り

～第40回　合宿会議で経穴イラストに四苦八苦～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員　河原保裕（かわはらやすひろ）

本年１月５日～６日、昨年に引き続き新年早々の合宿会議を開催することとなった。会場は日本鍼灸会館をお借りし、朝から夜遅くまでの恒例となった合宿会議である。昨年末はイラスト担当会議とガイドライン担当会議と個別の小会議で作業を行っていたため、作業部会委員７人が全員そろっての会議は久しぶりであった。

今回の会議で2005年５月から始まった作業部会会議も43回を数えることになるが、その間、一昨年10月末につくば会議で最終的な経穴部位標準化が達成され、いよいよWHO公式本日本語翻訳版の準備も整いつつある。WPRO（WHO西太平洋地域事務局）のChoi Seung-Hoon氏より、本年３月末か４月にWHO公式本を出版予定と発言があったため、日本側としてもWHO公式本と同時出版できるように準備を急いでいるところだ。WHO公式本日本語翻訳版のために、あと何回かの合宿会議が予定されており、出版物の内容構成や細部にわたるチェックを行う予定である。今回はその会議内容の一部を紹介させていただく。

イラスト図の最終確認

標準経穴部位イラスト図は、何カ月もかけて作成し確認作業を続けてきた。簡潔で解りやすいイラスト図の作成を目標にしていたが、作業を行えば行うほど欲が出てきてしまう。本当にきりのない作業であった。一応、すべてのイラスト図が完成して、昨年末には中国・韓国・Choi氏（WPRO）への確認作業も行った。今回は、各国からの提案や意見をいただき、それらを検討した上で、イラスト図の修正を行ったものに対しての確認作業であった。その他にも作業部会委員からの意見もあって一部修正も行ったが、ほぼ満足のいくイラスト図ができ上がったと自負している。今回のイラスト図修正で苦労したものをいくつか紹介したい。

１つは、腋窩線の表現である。淵腋（GB22）、輒筋（GB23）で中腋窩の表現が出てくるのである。淵腋（GB22）は、「側胸部で、第４肋間で中腋窩線上」、輒筋（GB23）は、「側胸部、第４肋間で中腋窩線の前方１寸」である。腋窩を表現するため人体の肢位をどのようにすればよいのか、何度も繰り返し図を描き、それをイラストレーターに作成してもらうのだが、わずかに身体がひねっていて腋窩線が斜めになっていたりすると、見た感じの位置関係が分かりにくくなる。京門（GB25）は、「側腹部、第12肋骨端の下縁」であるが、第12肋骨端は後腋窩の後方とならなくてはいけない。前・中・後の腋窩

線の位置をどう表現するかが問題となった。

もう1つの問題点は、頚部の経穴の表現方法である。人迎（ST9）、水突（ST10）は前面と側面の図を掲載する予定であるが、胸鎖乳突筋の前縁に位置する2つの経穴を前面から見た図はどう表現するかも問題となった。また、人迎（ST9）は、扶突（LI18）、天窓（SI16）と並ぶが、前面から表現する時に胸鎖乳突筋後縁にある天窓（SI16）をどうするかも最後まで検討した項目である。1つの経穴だけを示すのであれば、まだよかったかも知れないが1つの経穴とその近くにある経穴との整合性を図るのは、予想以上に大変な作業であった。

1穴に対し、1図にするのか、2図を載せるのかは最終的には今後の判断となるが、見る人がなるべくわかりやすく、構成上も綺麗にでき上がるように努力しているところである。

ガイドライン解説図

ガイドラインの解説図では、体表ランドマークや骨度など基本となる部分を簡潔に説明しているのだが、ランドマーク表現にも苦労があった。例えば、体表指標となる「男性において乳頭は第4肋間である」だが、1つの図にいくつかのランドマークを記載するので、肋間を示す色によっては肋骨に見えてしまう。多色刷りであれば対応の仕方も違ったであろうが、2色刷りでの作成で肋骨と肋間との差をハッキリさせるのは大変であった。また、腋窩中点を表すのに、腋窩をどのように表現するか、大胸筋や広背筋、大円筋、上腕の筋肉等をどのように描けば、わかりやすい腋窩になるのかを検討した。

今回の一連の作業の中で、意外とうまくいきお気に入りなのは、手部・足部にある赤白肉際の表現である。表裏の肌理と色の違いを表現するにはどうすればよいか悩んだところであるが、非常に解りやすく綺麗に仕上がっている。

人体に骨度を示す場合、人体の全体図にそれぞれの骨度を示すわけだが、骨度を示す起点が近くにたくさんある場合、起点を示す線がたくさん並んで繁雑になってしまいわかりにくくなってしまう。また、関節部が起点になる場合が多いが、起点を示す線と関節横紋とを区別して表現しなくてはならない。ここでは起点を示す線に矢印を付けたり、色を変えたりして検討を重ねているところである。

TFT会議

1月29日からマニラでTFT（タスクフォース）会議が開催される。これまでの作業の中で、いくつか修正点があるので最終的に結論付けるためである。例えば、韓国のKoo氏からの提案で、イラスト内にもう少し詳細な解剖用語を挿入したほうがよいとの意見が出ているが、どこまで詳細な表現が必要かTFT会議で検討する。体表区分については、現在は僧帽筋の前縁を境に前頚部と後頚部しか区分されていないが、これでは風池（GB20）、完骨（GB12）などは前頚部に区分され、日本側としては違和感を覚えるため、新たに「側頚部」の区分を行い、前頚部を胸鎖乳突筋の後縁から前とし、側頚部を胸鎖乳突筋後縁と僧帽筋前縁の間とする日本案の導入をTFT会議に提案する。

次回は、2月9～11日に作業部会会議を開催することとなった。今回のTFT会議の結果に伴い、イラスト図の修正が必要になる場合もありそれに対応するためと、WHO公式本日本語翻訳版の日本語訳の最終確認を行うためである。

（〒330-0802　さいたま市大宮区宮町2-3-1
第2大矢部ビル2F　アコール鍼灸治療院）